

## 特色ある学校

### 「新高校3年目の課題と取組」について

山口県立下関工科高等学校長 池田 拓司

#### 1. はじめに

本校は、山口県立下関中央工業高等学校（明治43年創立）と山口県立下関工業高等学校（昭和14年創立）が再編統合され、平成28年4月に開校した学校である。4学科7コースを有する県内最大規模の工業高校となり、至誠・探求・創造の校訓を掲げ、新たな時代のものづくり産業を支えるポテンシャルをもった工業人の育成をめざしている。

本年度の入学生を以て全学年が「工科生」となり、すべての教育活動が全校体制で実施できることになった。そこで、学校および特色ある学校づくりをめざした取組等について紹介させていただく。

#### 2. 工業科設置校の状況

山口県では、下関市から岩国市まで瀬戸内海



図1 学校の全景

沿岸の市町を中心に工業高校が設置されてきた。県教委の「県立高校将来構想」に基づき、学校・学科の再編整備が進められ、商業高校と工業高校、普通高校と工業高校等の再編統合によって新しい学校が誕生したが、いずれも工業の大学科は維持された。

本校は、工業高校と工業高校の統合によるはじめてのケースとなった。

私立高校も、各校において機械科、電気科、自動車工学科等を設置し工業教育を実践している。

#### 3. 学校の概要

##### (1) 学校目標等（次ページ）

本校は、2校の伝統を引き継ぎ、明るく挨拶のできる生徒が多いが、主体性や実行力に欠ける面が認められる。

そこで、本年度のチャレンジ目標として『実



図2 工業科設置高校の状況

<p>校訓 至誠・探求・創造</p> <p>■ 教育目標</p> <p>◇キャリア教育の推進</p> <p>◇職業教育の推進</p> <p>◇特別活動の充実・強化と健康安全教育の推進</p> <p>◇地域に開かれ、信頼される学校づくりの推進</p> <p>◇ものづくりへの積極的・主体的取組と資格取得の推進</p> <p>◇基礎学力向上</p> <p>■ 身に付けさせたい能力等</p> <p>主体性 実行力 協調性 規律性</p> <p>向上心 責任感 職業観・勤労観</p> <p>創造力</p>	
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	--

行]～やるべきこと・やるべきとき～を掲げた。日々の教育活動をとおして、身に付けさせたい力と考えている。

## (2) 設置学科等

◆設置学科と学習分野			
学科	学習分野	定員	クラス数
機械工学科	機械コース 造船コース	80名	2
電気工学科	電気コース 電子コース	70名	2
建設工学科	建築コース 土木コース	40名	1
応用化学工学科	応用化学	35名	1
<p>■コース選択</p> <p>・建設工学科は1年、機械工学科・電気工学科は2年でコース分けを実施</p> <p>□定時制課程機械科(定員40名)</p> <p>・本年度入学生の卒業と同時に課程が廃止(未年度募集停止)</p>			

2校の統合によって、科をコースに変更したものはあるが、7つの学習分野は維持・継続されている。

両校の卒業生が、企業等において活躍されていることを強みとし、外部との連携を図りながら、効果的な専門教育を実践していきたいと考えている。

また、学科間、コース間の横のつながりによる取組も課題としている。

## (3) 生徒の在籍状況

- 生徒は概ね下関市内から通学している。
- 女子生徒は31名(4.6%)であるが、各学科に在籍している。
- 女子制服はブレザー+スラックスである。

## ◆生徒の在籍状況

学科(コース)	1年	2年	3年
機械工学科 機械コース	80 (3)	72 (3)	69 (1)
造船コース		7	10 (1)
電気工学科 電気コース	70 (2)	52 (1)	51 (1)
電子コース		19	17
建設工学科 建築コース	31 (3)	20 (3)	24 (3)
土木コース	9 (2)	18	16 (1)
応用化学工学科	35 (3)	34 (1)	34 (1)
合計	225 (16)	222 (8)	221 (7)

## ◆制服



○約300名(45%)が自転車通学しており、交通安全教育に力を入れている。

県内および生徒の多くが居住している下関市においても、今後少子化の影響は避けられないと考えている。工業高校の強みを生かしながら情報発信に努め、本校を志願する生徒を確保していくことが課題である。

## 4. 新高校としての取組

### (1) コミュニティ・スクール

山口県では、平成32年度までにすべての県立高校でコミュニティ・スクールを導入する計画で、本校では本年度から導入した。

高校では、学校・学科の特色や専門性に応じた「テーマ型コミュニティ・スクール」の推進が求められている。

本校では、これまでにコミュニティ・スクールにつながる取組を進めてきたが、今後は、生徒に身に付けさせたい能力等の育成を意識し、検証を加えながら進める必要を感じている。

## ◆コミュニティ・スクールの取組



### (2) 工業高校の特色を生かした取組

#### ○支援学校小学部への電動カートの作製

この取組は、市内の支援学校から運動会で車椅子を引っ張る電動カートの作製を依頼されたことに始まる。

電子コースを中心に、他の科・コースの協力を得ながら取組を進めた。

特に安全面の配慮から、発進・停止の動作をコンピュータ制御し、児童の身体に負担がかからないよう工夫している。

#### ◆取組例



贈呈式には、作製に関わった生徒が、キャラクターに扮して臨んだが、たいへん好評であった。生徒の感想からも、ものづくりと児童との交流による達成感が感じ取られた。

#### ○わくわくこどもサイエンス教室

わくわくこどもサイエンス教室は、市内の小学生を対象に、科学に興味をもってもらうこと、工業高校を身近に感じてもらうことを目的に始

めたもので、本校を会場にテーマ別に年数回実施している。

教員のほか化学研究部やボランティア部の生徒が、参加者に対する説明や手伝いを行っている。中にはコミュニケーションに戸惑う生徒もいたが、回数を重ねるごとに表情がよくなり説明も上達している。



#### ○大学との連携



下関工業高校のOBであり、雷研究者として活躍している東海大学の岡野大祐教授の研究室と共同で雷に関する研究を始めた。

研究は電気研究部の生徒を中心に取り組み、手始めに観測装置の設置を行った。今後は観測データを積み上げ、成果につなげる予定である。

#### ○小学校と連携したプログラミング講座

これまでも小学生を対象としたプログラミング教室は実施したが、初めての取組として本校生徒が講師を務め、市内S小学校の教員10名

を対象としたプログラミング講座を実施した。内容はパソコン上で簡単なプログラムを組み、ロボットを動かすものであるが、生徒・教員(今回は逆の立場)ともに真剣に取り組んでいた。講座の最後では、意見交換も行われ本校生徒にとってもよい励みとなった。



#### ◆ 課題と今後の取組について



## 5. おわりに

本校の課題と今後の取組については、次の(1)～(4)の実現をめざし、特色ある学校づくりになげたいと考えている。

- (1) 産業・社会を支える人材の育成という観点から「キャリア教育」を軸とした取組を進めたい。
- (2) 地域や企業など広く外部との連携を重視し、「必要とされる学校」をつくりたい。
- (3) 学ぶ態度を重視し、基礎・基本の習得から創意工夫ができる「課題発見型生徒」を育成したい。
- (4) コミュニティ・スクールを核として「明るく元気な学校」をめざしたい。



最後に、より先進的で深い取組を実践されておられる学校からの御指導・御助言をお願いして筆をおかせていただく。  
(機会がありましたら、おいでませ山口へ)